

令和2年度 第1回千代田区図書館評議会 議事要旨

【日時等】

- 〈実施日〉 令和2年7月9日（木） 10：00～11：20
- 〈場 所〉 千代田区役所 401 会議室
- 〈出席者〉
- 評議会委員（6名）
野口 武悟（会長） 鶴田 拓哉（副会長）
丸山 郁太郎 木原 一雄
福山 伸隆 北島 敦子
 - 区立図書館指定管理者（3名）
ゼネラルマネージャー 宮尾 賢一
千代田図書館長 小出 元一
日比谷図書館文化館長 大島 康平
 - 事務局
千代田区文化振興課長 大塚 立志 他2名
- 〈欠席者〉
- 評議会委員（2名）
高山 剛一 塚田 恭平

【資料】

—当日配布資料—

- 1 令和2年度第1回千代田区図書館評議会議事次第
- 2 令和元年度 千代田区立図書館年報
- 3 令和元年度 千代田区立図書館活動報告

—事前配布資料—

- 4 千代田区図書館評議会 図書館評価シート
- 5 千代田区立図書館基本運営方針 骨子案

【次第】

1 開会

文化振興課長挨拶

2 議題

- ① 令和元年度千代田区立図書館運営の評価
- ② 「千代田区立図書館基本運営方針 骨子案」について

3 連絡事項

次回日程

【議事経過】

1 開会

＜文化振興課長 挨拶＞

文化振興課長より挨拶と指導課の委員交代について連絡を行った。

2 議題

＜① 令和元年度千代田区立図書館運営の評価＞

会 長： 令和元年度の図書館運営に関する実績評価と指定管理者の自己評価が記載された「千代田区図書館評議会 図書館評価シート」を事前に送付している。この評価シートに基づき、まずは指定管理者の自己評価部分について図書館から説明をお願いしたい。質疑応答は全ての説明が終了した後に行う。

ゼネラルマネージャー： それでは、自己評価について簡単に説明する。千代田区立図書館は5つのコンセプトをもとに運営を行っている。これらのコンセプトに基づいて実績値を示すとともに、令和元年度の図書館運営について自己評価を行った。

まずは①千代田ゲートウェイであるが、情報発信量については他の公共図書館と比べても多いと自負している。情報発信のもととなる図書館の活動・事業が多いためであり、千代田区立図書館の特徴の一つであると考えている。実績評価はbとなったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて1カ月ほどイベント等の活動期間が短くなったためであり、a評価まではあと一歩であった。

②ビジネスを発想するセカンドオフィスについては、他の図書館でビジネス支援を前面に押し出しているところは少なく、夜間人口と昼間人口の差が大きいという点に着目した千代田区立図書館の特徴だと思っている。22時までの開館やWeb図書館の導入等についても先進的である。実績評価はbであり、今一つであると感じているが、伸びしろがある分野でもあるため、今後研究・努力をしていく必要があると考えている。

③区民の書齋は、区民のための地域の図書館としてのコンセプトである。利用者満足度としては来館者アンケートにおいて高い評価をいただいております。館によって蔵書数や収集している資料の分野に偏りがあるが、この点について利用者に理解していただいている結果だと思う。今後は、利用者によ

り満足していただけるような蔵書構成を行っていくことが課題である。

④クリエイトする書庫も千代田らしさのあるコンセプトであると考えている。千代田図書館所蔵の古書販売目録や内務省委託本、日比谷図書館特別研究室所蔵の古書などは扱いが難しい資料ではあるが、千代田区立図書館の特色ある財産の一つとして、一般の方にもっと知っていただくことが大きな課題であると考えている。

⑤ファミリーフィールドは児童サービスに関するコンセプトで、実績評価はcであった。児童サービスの拠点である四番町図書館が仮施設への移転のために1月15日から休館となったことや、新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた活動が一部実施できなかったことは残念であるが、年度を通して幅広く、数多くの事業を展開できたと思っている。

⑥管理運営等は5つのコンセプトをまとめた総合的な項目である。入館者数は思うように伸びておらず、今後、様々な施策をとりながら千代田区立図書館をより多くの人に認知してもらう必要がある。研修については、指定管理事業者が複数の企業で構成されているためにまとまって行うことは難しいが、各企業が専門的なスキルを伸ばす研修を行っているため、実施回数は多い。防災訓練も休館日が月1回と少ない中、法定の回数をこなしている。千代田区立図書館は様々な事業を展開しているために視察に訪れる方も多いが、近年、他にも新しい図書館が出てきており、今後は千代田区立図書館の目新しさをどのようにアピールしていくかも課題である。

文化振興課長： 補足として区立図書館における新型コロナウイルス感染症への対応等について説明をさせていただきたい。

(区立図書館における新型コロナウイルス感染症への対応と、令和2年2月から3月までに延期・中止となったイベントについて説明)

会長： それでは、各コンセプトについて委員から質問があればお願いしたい。

【①千代田ゲートウェイについて】

委員： 「取材対応件数」について、取材の内容に傾向はあったか。

ゼネラルマネージャー： 昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による図書館サービスの一部休止についての取材が多くあった。他はイベント等に関するごく一般的な取材であった。

委員： 取材は図書館から働きかけによるものか。

千代田図書館長： 他の公共図書館よりも積極的にニュースリリースを行っているため、図書館からの働きかけによる取材対応は多いと考えている。

【②ビジネスを発想するセカンドオフィスについて】

委員： 図書館からの説明でWeb図書館が先進的だという説明があったが、他にどこの図書館がWeb図書館を導入しているのか。他の図書館と比較して、千代田区立図書館のWeb図書館はどのような点が先進的なのか。

千代田図書館長： 千代田区立図書館は日本で初めてWeb図書館を導入した図書館であり、その点で先進的である。

- 会 長： 公共図書館で Web 図書館を導入しているところは、現在 91 か所である。
- 委 員： 「無線 LAN の提供」について、千代田図書館内における無線 LAN のカバー率は把握できるか。
- ゼネラルマネージャー： 千代田図書館の無線 LAN については、館内すべてをカバーできている。
- 委 員： 「データベース利用件数」の減少について、何か要因はあるか。
- ゼネラルマネージャー： データベースは毎年提供内容を見直しているが、利用者の増加につながっていないのが現状である。無線 LAN の整備等も進めているため、大抵のことはインターネットで調べてしまう利用者が多いのではないかと考えている。
- 委 員： 現在、データベースは館内での利用のみとなっていると思うが、コロナ禍においては館外からの利用ニーズもあると思われる。VPN 接続などにより、来館せずとも利用できるようにすることも検討するとよいのではないか。
- ゼネラルマネージャー： データベースの同時アクセス数の制限や、セキュリティの面で難しい部分もあると思うが、様々な手法を検討してデータベースの利用促進に努めていきたい。
- 委 員： 「キャレル席・電源付閲覧席の利用件数」について、千代田図書館と日比谷図書文化館の両館において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた 1 か月分がちょうど目標値に不足したように見える。感染症の影響を加味すると目標を達成していると思うが、この点について考慮して評価を行った方が良いか。
- 会 長： 実績評価では計画値や実績値等が事実として記載されている。感染症の影響については「評議会委員の評価」の自由記述部分を記載する際に考慮していただきたい。
- 千代田図書館長： 四番町図書館が仮施設への移転のために 1 月 15 日から 2 か月半にわたって休館したことも考慮いただければと思う。

【③区民の書齋について】

- 会 長： 「千代田 Web 図書館利用件数」が増加しているのは、特に新型コロナウイルス感染症の影響による伸びが大きかったのか。もしくは年間を通して利用が多かったのか。
- 千代田図書館長： 年間を通して前年度より若干多かったが、新型コロナウイルス感染症の影響がやはり大きかった。今年度も 4 月から 5 月の利用が多くなっている。
- 文化振興課長： 千代田区が他自治体に先駆けて電子図書館を導入したという経緯もあり、コロナ禍の現在、千代田 Web 図書館については大きく取り上げられている。しかしながらタイトル数が少ないことは課題として認識しており、今後充実に努めていく必要があると考えている。
- 委 員： Web 図書館とはベンダー¹と契約して電子書籍を提供するものであると思うが、コンテンツの充実は図書館の自助努力でできるものなのか。
- 千代田図書館長： 図書館が行う努力としては、ベンダーから提供されている電子書籍の数を増やすことと、図書館のオリジナルコンテンツの充実を図ることの両方が考

¹ 電子図書館のシステムを販売・提供している会社

えられるが、ベンダーから提供される電子書籍の数は紙の書籍と比べて圧倒的に少ない。書店、出版社等との協力が必要であるため、今後、関係者に働きかけて、問題点の洗い出しなどを行っていきたいと考えている。

会 長： Web 図書館の利用が伸びた一方で、「音楽配信サービス（ナクソス）利用件数」は前年度と同等程度の実績であるが、この要因は何か。

千代田図書館長： 音楽配信サービスは未だ告知が十分でない点があると思う。利用方法に関する講座を開催し始めたところであるので、もう少し様子を見たいと考えている。

文化振興課長： 個人的な見解ではあるが、音楽配信については多様なサービスが展開されている。区立図書館が提供する音楽配信サービスを、他のサービスとどのように差別化していくかが課題であると思う。

【④クリエイトする書庫について】

(質疑無し)

【⑤ファミリーフィールドについて】

委 員： 「区内教育施設等への情報発信回数」が前年度の2倍以上となっているが、この要因は何か。

ゼネラルマネージャー： 昨年度から、区立の施設だけでなく私立の幼稚園・保育園等にもリサイクル本の提供等についての情報発信を行うようになったためである。

委 員： リサイクル本は年々ストックが増えていくものなのか。

千代田図書館長： 新しい資料との入れ替えのために定期的に除籍を行っており、除籍された資料はリサイクルをしなければ廃棄することになる。特に昨年度は、四番町図書館の移転の際にリサイクル本として提供できる資料が多く出たため、幼稚園・保育園等の施設に声掛けをしたところ非常にニーズが高かった。

委 員： どのような資料をリサイクル本とするのか。

千代田図書館長： 一概には言えないが、分野によっては3年、5年ほど経った資料は除籍するという基準がある。科学的な分野であれば、10年前の資料が基本書としては使えない場合も多いため、そのような資料をリサイクル本とすることもあつた。また、人気があり何度も読まれて傷んだ資料を再購入した場合も、古い資料をリサイクルすることがある。

会 長： 「区内児童施設へのリサイクル本の提供」については前年度実績に記載がないが、令和元年度に取り組み始めた事業ということか。

千代田図書館長： 各館における個人の利用者に向けたリサイクル本の提供はこれまでも実施していたが、児童施設への提供は令和元年度から始めた事業である。

文化振興課長： リサイクル本の活用については、令和元年度に策定した「第3次千代田区子ども読書活動推進計画」で充実させていくべき施策として位置付けている。児童施設には、これらのリサイクル本を子どもの読書活動の推進にぜひ活用していただきたいと考えている。本来は4月にもリサイクル本の提供会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて延期となった。この取り組みについては今後も引き続き行っていきたいと思っている。

【⑥管理運営等について】

委員： 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた休館期間中は職員の勤務体制はどうであったか。

ゼネラルマネージャー： これまでに手が行き届いていなかった業務や資料の整理などを実施していたが、所管課の指示もあり、休める職員はできるだけ休む体制をとっていた。

委員： 現在、利用時間を2時間以内としているとのことだが、厳格な管理はできるのか。

ゼネラルマネージャー： 現在はほぼ利用者の自己管理に任せている。問題がある場合は適宜対応を考えていく。

文化振興課長： システムにより閲覧席の完全予約制が取れる場合は厳密な管理ができると思うが、現在の千代田区立図書館ではその環境が整っていない。目安を決めてご協力をお願いする手法をとらざるを得ないが、現在は特に大きなトラブルもなく、利用者にはご理解とご協力を頂けている状況である。目安時間についても正しい基準はわからないが、資料の閲覧や調査等のためには2時間程度確保することが必要だと考えて設定した。

会長： ほかに質問等があれば、事務局あてに寄せていただければ個別に対応する。「評議会委員の評価」については、配布している紙資料に直接記入して事務局あてにFAX等で送付するか、後日お送りするデータに入力してメールにてご提出いただきたい。

<② 「千代田区立図書館基本運営方針 骨子案」について>

文化振興課長より「千代田区立図書館基本運営方針 骨子案」に基づき説明が行われた。

その後、「千代田区立図書館基本運営方針 骨子案」について質疑応答。

会長： 本日は示されている基本運営方針は骨子案であり、この骨子案に肉づけがされて方針となる予定である。本日は、特に「第3章 基本運営方針」についてご意見があれば伺いたい。

委員： 「目指す図書館像」が提示されているのであれば、千代田区の目指すべき姿もイメージされているものだと思う。人口構成や学校の配置状況など、基本的な情報や将来の推定値等を根拠として策定したことがわかるようになっていると、区として将来を見据えていることが明らかになってよいと思う。

文化振興課長： この方針は千代田区としての基本計画に基づいて策定するものである。基本方針に記載している「目指す図書館像」も、区の基本計画「ちよだみらいプロジェクト」にて目指されている図書館像である。ご指摘のとおり、今後の方向性を決めるために基礎となる情報は重要なものであり、現在、千代田区の人口は右肩上がりであること、年少人口（0～14歳）や外国人の人口も増加していること、また、コロナウイルスの影響もあり、区内昼間人口の動向も変わってくるなどが推測されるなど、そのような現状等を勘案して方針を書き込んでいくことが必要だと考えている。

委員： インターネットの発展やデジタル化の進展に対応した図書館のあり方につ

いてもこの部分で押さえておくべきだと考える。

会 長： 紙媒体とデジタル資料をハイブリッドで扱うことも重要である。千代田区は現在どちらも進んでいるが、今後、それぞれを強化していくという視点が必要だろう。

これに関連して、基本的なサービスの方向性の柱①「多様なニーズに応える資料の収集・提供」については、紙媒体としての印象が強い「資料」という表現ではなく、デジタル資料も含めた「情報資源」という表現にしたほうが適切ではないかと考える。

文化振興課長： 表現については改めて検討する。

委 員： 柱②「誰もが利用しやすい環境づくり」にも関わるが、外国人の利用者が増えてくることも考えて、グローバルな視点での対応や、LGBT にも配慮した環境づくりなど、より深く掘り下げて方向性を示すと良いのではないかと考える。

文化振興課長： 国籍や使用言語、性別、年齢などを問わず、あらゆるニーズに応える図書館サービスの提供を目指していく必要がある。千代田区に住む人々が多様化していく中で、多言語だけでなく多文化のサービスを充実させていくことが今後の大きな課題の一つだと考えている。

会 長： 柱②「誰もが利用しやすい環境づくり」については、多言語・多文化サービスだけにとどまらず、バリアフリーやアクセシビリティといった、高齢者や障害者への対応も含めた広い柱になるのだと思う。

副 会 長： 現在の骨子案に記載されている7つの柱は、現在の図書館における5つのコンセプトと対応していないのか。

文化振興課長： 図書館における5つのコンセプトは、あくまでも現在の指定管理者から提案されたものであるため、基本運営方針とは切り分けて考えていただきたい。

会 長： 基本運営方針は5つのコンセプトを見直して策定するものではなく、これまでに策定された2つの基本構想を見直すものということで間違いないか。

文化振興課長： そのとおりである。

副 会 長： 理解した。7つの柱は広い解釈ができていて問題ないと思うが、ここからどれだけ肉付けをしていくかが課題であろう。

会 長： これから5年、10年後を見据えた方針としては、これらの柱はある程度広く解釈できる方が良いだろう。各柱の肉付けについては次回の評議会にて事務局より示されるので、委員の皆様にはその際にまたご意見を頂ければと思う。

基本運営方針に関しては、評議会後にもご意見等を受け付ける予定である。追加でご意見・ご質問があれば、評価シートの提出と合わせて7月末ごろをめぐりに事務局まで提出していただきたい。

3 連絡事項

文化振興課長： 本日委員の皆様から頂いたご意見は、次回までに整理して反映させていく。次回、令和2年度第2回の図書館評議会は9月の開催を予定している。詳細については事務局より追って連絡する。

以上で第1回千代田区図書館評議会を閉会とする。